

会 議 名	第6回木更津市駐屯地に関する協議会定例会・令和7年度第1回木更津駐屯地に関する協議会部会 合同会議		
開 催 日	令和7年5月15日(木)	場 所	駅前庁舎 防災室・会議室
時 間	午前10時30分～午前11時30分まで		
出 席 者	渡辺会長(木更津市長)、鶴岡委員(木更津市議会議長)、斉藤委員(木更津市議会基地政策特別委員会委員長)、森委員(北関東防衛局長)、伊東委員(木更津駐屯地司令)、品川委員(木更津市企画部長・部会長)、遠山委員(新宿区長)、小原委員(吾妻区長)、渡辺委員(中里1丁目区)、山口委員(中里2丁目区長)、新堀委員(江川区長)、滝口委員(久津間区長)、鳴川委員(畔戸区長)、江野澤委員(新木更津市漁業協同組合代表理事組合長)、高橋委員(金田漁業協同組合代表理事組合長)		
議 題	(1) 陸上自衛隊 V-22 オスプレイの佐賀駐屯地への移駐について(公開) (2) 陸上自衛隊オスプレイの佐賀移駐後の協議会等の継続について(公開)		
そ の 他	なし		
配 付 資 料	01 会議次第 02 委員名簿 03 座席表 04 【資料1】陸上自衛隊 V-22(オスプレイ)の佐賀駐屯地への移駐について 05 【資料2】陸上自衛隊オスプレイの佐賀移駐後の協議会等の継続について		
概 要	議題(1) 陸上自衛隊 V-22 オスプレイの佐賀駐屯地への移駐について 【説 明】 ●資料1に基づいて以下のとおり説明 森委員)陸上自衛隊オスプレイの移駐に必要な施設整備は順調に進捗しており、計画通り本年6月末までに完了する見込みである。施設整備完了後、木更津駐屯地への暫定配備開始から5年となる7月9日に、佐賀駐屯地(仮称)を開設のうえ、同日に陸上自衛隊オスプレイを運用する輸送航空隊が木更津駐屯地から移駐する予定であり、これにより陸上自衛隊オスプレイの配備地は佐賀駐屯地(仮称)となる。他方で、木更津駐屯地に所在している17機の陸上自衛隊オスプレイについては、飛行の安全・機体の整備状況などを総合的に勘案しながら順次、佐賀駐屯地(仮称)に移駐させ、8月中旬には移駐作業が完了する予定である。航空機は、飛行の安全確保のため、飛行前後における点検のほか、前回の点検から一定の日数や一定の飛行時間が経過した際に整備を実施する必要がある。このように、整備に要する期間は、整備の内容や機体の状況に左右されるものであり、飛行の安全確保を最優先に移駐を進めるためにも、7月9日以降も整備に一定の期間が必要となることをご理解願う。なお、移駐が完了していない機体について、飛行訓練は行わない予定であるが、機体整備のための試験飛行を行う場合がある。機体整備のための飛行については、市街地上空を避け、海上の空域にて実施するが、木更津駐屯地への離発着および気象状況や安全上の理由等によりやむを得ない場合には、海側の場周経路を使用することがあることをご理解願う。また、陸上自衛隊オスプレイは木更津駐屯地において定期機体整備を行わせていただく考えであることから、佐賀駐屯地(仮称)への移駐作業完了後も、当該目的のために飛来することはあることを併せてご理解願う。 【主な質疑応答・意見等】 滝口委員)移駐後も、整備のために木更津駐屯地に飛来するというのか。 森委員)部隊が行う整備は佐賀駐屯地で実施することとなるが、約5年に1度程度の頻度で整備企業に外注して行う定期機体整備については、整備の基盤が木更津駐屯地にあることから、定期機体整備のために木更津駐屯地に飛来することとなる。 渡辺委員)移駐後に飛来する際は、こういった経路を飛行するのか。 伊東委員)基本的には、洋上から場周経路を使用して駐屯地に飛来することとなる。 高橋委員)定期機体整備の拠点を佐賀へ移駐させることはありえるか。		

森委員)整備部隊は佐賀に移駐するが、整備企業が行う定期機体整備については、整備の効率化などのために木更津駐屯地で実施することとしている。

小原委員)現在SUBARUが沖縄に配備されている米海兵隊オスプレイの定期機体整備を行っているかと思うが、試験飛行にあたっては、事故のないようお願いする。

遠山委員)定期機体整備の今後について決まっていることがあれば確認させていただきたい。SUBARU以外が受注することもあるのか。

森委員)木更津駐屯地においては、日米オスプレイの共通整備基盤として、現在、普天間飛行場の米海兵隊オスプレイの定期機体整備をSUBARUが受注して行っているが、現在の契約の後の計画については何ら決まっているものはない。

遠山委員)定期機体整備をなぜSUBARUが担当しているのかご存じないと思うが、オスプレイは機体をボーイング社、ベル社が担当しているが、川崎重工やスバルにしても、日本の場合は双方できる企業である。米国がやっていることと日本がやっていることは違うということを基礎認識として覚えていただきたい。

斉藤委員)昨日の自衛隊機T-4の事故は、今般の移駐計画に影響はないということでしょうか。

森委員)昨日、小牧基地を離陸したT-4の墜落事故が発生したが、現在、原因究明等が行われているものと承知している。機体の種類も異なることから、オスプレイの佐賀への移駐計画については、予定通り進めてまいりたいと考えている。

江野澤委員)定期機体整備について、年間何機程度行う予定なのか。

森委員)各機体概ね5年1度程度と見積もっているが、機体毎の飛行実績に基づいて定期機体整備を実施することから、具体的に年間何機といった計画はない。

新堀委員)定期機体整備の試験飛行について、夜間は騒音による影響が大きいので日中に実施していただきたい。

伊東委員)試験飛行については、基本的に日中に実施している。真にやむを得ない場合等はあるが、それについてはご理解願う。

江野澤委員)定期機体整備の試験飛行について、海上で実施することだが、江川海岸は基地に隣接していることから沖の方で実施していただきたい。

渡辺会長)本年7月9日をもって木更津駐屯地における陸上自衛隊オスプレイの暫定配備は終了することとなるが、佐賀駐屯地へ移駐が完了した後も、定期機体整備のための木更津駐屯地に飛来する予定となっている。平成29年2月1日から、株式会社SUBARUが木更津駐屯地において普天間飛行場所属の米海兵隊オスプレイの定期機体整備を実施しているが、改めて、木更津駐屯地における日米オスプレイの共通整備基盤について、説明をお願いします。

【説明】

森委員)オスプレイは、使用部隊で行う日々の点検や、整備部隊で行う点検のほか、約5年に1度程度の間隔で、整備企業に外注して行う分解点検、いわゆる定期機体整備が必要であり、木更津駐屯地で実施するのは、この定期機体整備である。平成26年、木更津駐屯地に日米のオスプレイを共通で整備できる基盤を確立する方針を決定し、その後、木更津市へ説明してきたところである。防衛省としては、日米安保体制の円滑かつ効果的な運用、日米オスプレイの整備効率化、沖縄負担軽減等の観点や、技術力の高い日本企業が整備を担当することで、オスプレイの安全性の一層の向上に資すると考えている。そのうえで、米海兵隊オスプレイについては、平成29年2月から木更津駐屯地において定期機体整備を実施しており、これまでに9機整備を完了し、現在10機目と11機目が整備中である。陸上自衛隊オスプレイについても、今後、木更津駐屯地で定期機体整備を行う考えであるが、現時点で整備の開始時期は未定である。現在、木更津駐屯地に新しく整備用格納庫2棟を建設しており、米軍用の格納庫は令和6年6月に完成し、自衛隊用の格納庫については令和7年度中の完成を目指して工事を進めている。今後、整備機数の増加に伴って新格納庫で整備を開始する予定であるが、現時点において具体的な時期は未定である。なお、新格納庫完成後においても、既存の格納庫と併せて従来と同様の整備を行うものであり、ホバリング場所も従来と同じ場所を実施する予定であることから、現在の整備内容と何ら変わりはない。

【主な質疑応答・意見等】

高橋委員)定期機体整備における試験飛行の飛行経路は海上ということだが、訓練で飛行している飛行経路と同じということか。

伊東委員)整備の内容によってそれぞれ異なっており、訓練で飛行している飛行経路だけでなく、高度をとって洋上に出るものもある。

高橋委員)訓練飛行の経路とは異なるという理解でよいのか。

伊東委員)試験飛行が可能な空域があるが、洋上が基本となる。

高橋委員)試験飛行でどこを飛行するか決まっていないのか。

森委員)現在、木更津駐屯地で行っている訓練飛行は、パイロットの練度維持のための飛行であり離発着訓練のために場周経路を飛行する必要がある。試験飛行は整備のための飛行となり、目的が異なることから、可能な限り速やかに洋上に出て東京湾南部上空及び相模湾上空で行うこととなっている。

山口委員)今後の定期機体整備の対象となる機体は、陸上自衛隊オスプレイ17機と米海兵隊オスプレイ24機だけという理解でよいのか。また、米軍の他のオスプレイの整備計画があるのか確認させていただきたい。

森委員)木更津駐屯地における日米オスプレイの共通整備基盤に係る整備対象機は、米海兵隊オスプレイと陸上自衛隊オスプレイとなっており、それ以外については未定である。

滝口委員)試験飛行について洋上で行うとのことだが、その際に民家上空を飛行して洋上に出るのか、直接洋上に出るのか確認させていただきたい。

森委員)試験飛行については、西側の場周経路を使用して速やかに洋上に出て東京湾南部上空及び相模湾上空で行うことを考えている。駐屯地は海に接していることから、速やかに洋上に出て、住宅地上空を飛行することは最小限になるよう考えている。

滝口委員)最小限にさせていただけるとのことだが、オスプレイは低周波による振動の影響が大きいので配慮いただきたい。

鳴川委員)定期機体整備について、同時に複数機の整備が行われるのか。また、ホバリングの際の騒音による影響が特に大きいことから、同時に複数機がホバリングを行うのか確認させていただきたい。

伊東委員)状況にもよるが可能性としてはありえる。

渡辺委員)オスプレイの事故に関する報道を受けて、安全性への不安が生じているものと認識しているが、事故調査の結果についてはどうなっているのか。また、事故原因に対してどのような対策をとっているのかお聞かせいただきたい。

伊東委員)事故調査の結果について、細部については申し上げられないが、これまでヒューマンエラーであるとか、部品の問題等があった。一方で、それらに対する再発防止策というのは、確実に実施しており、二度と同じ問題が生じないよう二重、三重のプロセスで再発防止に努めている。

滝口委員)試験飛行や訓練飛行の際に、地上や海上で異常を察知したら何らかの対処はされているのか伺う。

伊東委員)そういった場合については、速やかに無線で知らせて、駐屯地の隊員が関係機関に連絡をしている。

江野澤委員)基地内でホバリングすると思うが、1機あたり実施する時間は決まっているのか。

伊東委員)決まった時間を設定しているわけではなく、機体や飛行要領ごとに異なっている。

江野澤委員)基地内で行うホバリングはうるさいので短くいただきたい。

伊東委員)最大限配慮させていただく。

渡辺会長)森委員、伊東委員においては、引き続き、日米オスプレイの定期機体整備をはじめ、木更津駐屯地に配備されている航空機の安全な運用をお願いするとともに、基地周辺の皆様への最大限の配慮と負担の軽減をお願いする。

議題(2) 陸上自衛隊オスプレイの佐賀移駐後の協議会等の継続について

【説明】

●資料2に基づいて説明

	【主な質疑応答・意見等】 なし 【審議の結果】 原案のとおり、陸上自衛隊オスプレイの暫定配備終了後においても、木更津駐屯地に関する協議会及び同協議会部会を継続することとする。 【その他】 伊東委員)令和2年からV-22の木更津市への暫定配備を了承していただき、今日までの約5年間、本協議会会長である木更津市長をはじめ、市議会、漁協組合、駐屯地周辺住民の多くのみなさまのご協力やご理解を賜り、V-22の導入から移駐準備を進めてこられたことに深く御礼を申し上げます。現在、木更津駐屯地所在部隊が一丸となって移駐の準備を順調に進めており、先程、北関東防衛局長からあったとおり、V-22を保有する輸送航空隊は、7月9日に佐賀県への移動を開始し、航空機や隊員は約1か月の期間をかけて移駐をする予定である。航空機の状態や必要な整備の進捗によって、期間をいただくことをご認識賜りたい。7月9日以降、木更津においてV-22の整備確認飛行は実施するが、東京湾方面での実施を基準として市街地上空を避けて実施をする。安全に最大限配慮し、天候の影響やその他の航空機の状況等によっては、場周経路を一部飛行することをご了承いただきたいと思う。また、輸送航空隊は佐賀県に移駐した後も第1ヘリコプター団の隷下部隊であることから、細部の運用は現時点では未定であるが、木更津航空祭などにおいてはV-22が飛来する可能性があるので、その際は是非足を運んでいただいてご理解を深めていただきたいと思う。最後になるが、木更津駐屯地は、引き続き木更津市や駐屯地周辺の皆様との連携を深めながら地域とともにある駐屯地を目指してまいる所存であるので、今後も変わらぬご協力やご理解を賜るよう、よろしくお願い申し上げます。 森委員)改めて、渡辺市長を始めとする木更津市の関係者の皆様のおかげで、これまでの約5年間、陸上自衛隊オスプレイの安定的な運用が実現できたことに、重ねて感謝申し上げます。陸上自衛隊オスプレイ移駐後も、木更津駐屯地は日米オスプレイの共通整備基盤として、また、第1ヘリコプター団が所在する駐屯地として重要性は何ら変わることはなく、今後とも本協議会や様々な機会を通じて地元の皆様のご意見を伺いながら、安心・安全対策や各種問題の解決のために努力してまいる所存である。引き続き、渡辺市長を始め皆様のご理解とご協力を賜るようよろしくお願いします。
--	--